

議 長 日程第5「一般質問」に入ります。
一般質問は通告順に行います。受付番号第1号、利根川茂君の一般質問を許します。登壇願います。

7 番 利 根 川 それでは、一般質問させていただきます。受付番号第1号、質問議員、第7番 利根川茂。町職員の他市職員への流出について。

ことしも町広報6月号により、町一般行政等の職員等の募集がされ、9月には第2次試験も終わり、合否が決定されると思います。松田町の未来を町民とともにつくっていく有為な人材を採用されることを望みます。

さて、職業選択の自由は憲法で保障されておりますが、近年、本町にかかわらず採用予定の応募年齢が40歳未満とする自治体が多くなっているため、20代から30代の職員が他市職員にトラバーユする人が多く見受けられます。ある町では、その年齢の男子職員が極端に少なくなったと言われております。

そこで、(1) 本町の実態とその原因は何ですか。

(2) 県下の町村の実態は。

そしてその対策を考えてられますか。町長にお伺いいたします。

町 長 それでは、利根川議員の御質問にお答えをさせていただきます。まず、町職員採用試験の関係でございますが、私が就任して以来、募集要項の年齢要件を緩和させていただき、職種にもよりますが、一般事務として上限をおおむね45歳までとして募集を行っております。この理由につきましては、民間企業で培ってこられた技術やノウハウを行政運営に反映させるためでありまして、即戦力として職員の確保や高い専門性を確保するといった狙いと、職員の年齢構成のバランスを保つ効果があり行っているもので、組織力の向上につながっているものと考えております。平成30年度の採用試験においても、7月末に第1次試験として筆記試験を実施させていただいて、8月に2次試験として面接試験を実施いたしました。現在、その面接の中から合格者を選考しているところでございます。現在の条例において、職員定数は119名の中でございますが、現状115名体制で行政運営をとり行っております。重点事業に職員を配置するなど、適材適所の配置を心がけているところでもございます。

それでは、1点目の御質問にお答えをさせていただきます。全ての年代を対

象といたしますが、近年10年間の状況を申しますと、年平均で2名程度の職員が、さまざまな理由によって退職をしている状況でもあります。理由といたしましては、個人情報の観点もございまして、特定できるような報告を差し控えさせていただきますが、概略を申し上げますと、個人都合や家族都合で退職された方が10名、自身のスキルアップを目指して退職された方が6名、そのほかの理由が6名であります。私といたしましては、町の税金を投入し、人材の確保から育成を行っている途中での退職されることで、町役場全体の戦力を弱めてしまうということになり得ますので、とても残念に思っており、このようなことがないよう改めて採用時からの注意を払っているところでもございます。

次に、2点目の県内13町村での実態でございますが、13町村では毎年1名程度の若手職員が、ほかの自治体や民間企業へ転職している状況があるということを知っております。職場でなじめない職員、またコミュニケーションがとれないなど、転職の理由はさまざまなようでございますが、心身故障による休職期間を経て自己都合で退職される方も少なからずいるというふうにも聞いております。このような退職者を出さないためにも、町といたしましては採用時から5年目職員までを対象に、公務員としての基礎知識や行動など研修を取り入れることや、課内で職員間による仕事や悩みごとのフォローをすることで職員には安心、自信をつけてもらうよう対策を図っているところでもございます。

職場での働き方や職業選択の自由により、働く会社・場所については自由であると思いますが、公務員は、特に一度勤め始めたら、よほどのことがない限り定年まで保障されていることを鑑みますと、町職員として自覚を持っていただき、町民のためという気概を持って職務についていただくことの大切さなど、それが町職員としての誇りとなるよう、今後もしっかりと伝えていきたいと考えているところでもございます。

働き方を変えていく取り組みといたしましては、職員の健康管理も兼ねて、昨年度から夜間の会議開催に対する時間差出勤制度としてフレックスタイム制度を導入し、時間外勤務が長時間に及ばないように配慮しているところでもございます。また、毎週水曜日と給料日のノー残業デーの徹底を促し、さらに職員の仕事の専門性を高めるための研修機会を充実させることで、公務員としての

意識の醸成につなげていきたいというふうに考えております。

また、一つの提案でもございますが、職員全員が庁内にあります有志からなる運動など、さまざまなクラブに入ることで、仕事だけでないおつき合いがふえ、職員同士のコミュニケーションを向上させることで、仕事上でもスムーズに行えるんじゃないかというふうに考えているところでもございます。やめていく方々の理由はさまざまでございますが、役場の職員も人間なので、人と人とのコミュニケーションが強化されることで離職率の低下につながるのではないかというふうに思ってます。職員の方々にも自発的な活動を促してまいりたいというふうに考えてございます。以上でございます。

7 番 利 根 川 ありがとうございます。私、今まで一般質問はですね、やり取りを含めて、長くても4分50秒程度で終わりにさせていただいておりますが、今回の件については、議長に45分の時間をお願いしておりますので、45分びったり使ってですね、論議を交わしてみたいというふうに考えております。

まず、町長、職員の奮起や自覚を促すだけではなくて、そのほかの理由はないんでしょうかね。10年間の間に20人の職員がいろんな事情で退職をされたということは私も承知しております。私が問題にしているのは、表題にありますとおり、本町の職員がですね、ほかの市役所の職員にトラバーユする。そこを原因としているんですよ。なぜなのか。どうしてなのか。これは私が、私は昭和39年5月1日に、東京オリンピックの年です。町の職員として採用されました。それから39年1カ月務めさせていただきました。最初は鍵和田一二町長の時代です。古いことですが、昭和30年代の初めにはですね、同じ職員の中でも2名の方が県の職員に移行されました。我々の先輩です。それから横浜銀行の職員に転出された方がいました。それからもう一つ、昭和43年に東名が開通しましたけれども、39年というと、その四、五年前ですから、道路公団に転職をされた先輩職員がいます。昭和30年代にはその程度だった。あとは定年退職か家庭の事情。

我々の世代はですね、ちょうど昭和30年・40年・50年代前半まで入職した職員は、いわゆる松田町の豪農の長男が多かったんですね。豪農の。ここにも議員としていらっしゃいますけども、名前出してすいませんけれども、井上議員

や田代議員のように豪農の長男の方、給料安くてもいいや。長男だから役場行ってよ、土・日は百姓やらせるんだ。だから余り待遇関係については、余り頓着なかったんですね。私は貧乏人の次男でしたから、非常にその辺で、給料が安くて大変だなと思ったけれども、同じ町内だし、一旦、二十歳で務めさせていただいた、頑張って39年もやりました。最低の給料をいただきました。ただ一つうれしかったことは、今顧みますとですね、婿養子の話だけはたくさんありました。これは余計な話ですけれども。そういう話はいっぱいありました。

私、話はもとに戻りますけれども、10年の間に20名の職員が退職をされたということですけれども、私が調べたところによると、町長の代になってほかの行政機関にトラバークした人が、たしか5名いらっしやると思います。まず、神奈川県警本部に行かれた保健師さん、そうですね。それから葉山町役場にトラバークされた方、それから千葉の国税庁に行った方、千葉市役所の中にある区役所に行かれた方、そして何とですね、ことしの3月まで松田町役場の職員で、4月からお隣の秦野市役所の職員に流れた方がいます。松田の営業所から秦野の営業所に異動したわけじゃないんですよ、民間と同じように。もっともっと、私がいろいろ調べたんですけどね、さっき町長の答弁のあるとおり、守秘義務があるから退職した職員がどこへ行って何をしてるかって、なかなかしゃべってくれない。だけど、僕は専門学校で12年ばかり講師をしてまして、就職の案内なんかやっていたので、その中である男子職員がある町に就職しました。親もとっても喜んだ。模擬面接もやりました。論文の書き方の指導もした。5年たったら私の家に来ました。何と言ったか。利根川さん、お世話になったけども、ことしの6月に〇〇市の職員の試験を受けます。合格したらそっちへ行っていいですか。え、5年もたってよ、ちょうど二十七、八で。いや、利根川さんね、我が町ではですね、あえて自治体名は伏せますけども、5年間の間に21名、茅ヶ崎、平塚、藤沢、小田原の市の職員にトラバークしたそうです。ですから私、ここで書いたとおりに20代の半ばから30代までの男子職員が極端に、こういう形でヒョウタンの形で減ってしまった。そうすると、先輩が〇〇市の職員になってる先輩がですね、お前来いよ、上役に話してやるからよ、試験受けるよ。こういうスカウトがかかってくるそうです。だから私は行きた

いと。お前、給料ちょっと違うかもしれないけど、せっかく勤めたんだから我慢してやれよと言ったら、こんな大きな紙を出して、利根川さん、私は今27です。来年28になります。まだ独身です。このまま試験を受けて採用された場合、私は同業同種、これ総務課長わかりますよね。同業同種の仕事をしてたんで、100%5年間の前歴加算がされて、〇〇市の職員になれば5年いた職員と同じ給料がもらえます。32で結婚して33で子供が生まれて、ずっと言っていましたよ。何歳で係長になって最終的に52歳で課長になって、部長や参事になれなくても、幾らくらい…今の現行で合わせる給料と町の職員の給料と毎年毎年合わせた。例規集を持って来て、給料をパソコンで打って調べた。幾ら違うか。32年間で何と3,000万違う。3,000万。3,000万違うんですよ、32年間で。

3,000万違うということは、松田町で私の近所で一番最近安い建売で店屋場にありましたけど1,665万です。建売住宅が。それで、子供が2人いたとしても、その2人の子供がいわゆる経済学部とか文科系の大学に行けば、入学金と4年間の学費を含めて1人五、六百万ですね。ということは、家1軒と2人の息子や娘の大学の授業料が出ちゃうという。何も私のように多額のローンを背負うことはない。じゃあ職業選択の自由があるから、試験を受けたら、受かったら行くのはやむを得ないな。こういう話で終わって、その後、受かったかどうか聞いておりませんが、中身はそうなんですよ。

ですから、今、町の職員で応募してくるのは、かつての我々の仲間だったような人のようにですね、百姓家の長男なんか誰もいない。誰もいないんですよ。それで、私は何年か前に昼休みにしょっちゅう図書館行っていました。そうしたら、若い職員が一生懸命こんな分厚い本を読んでいるんですね。時間になるとそこに何かメモみたいなのをに入れて、それを返して帰るんです。いや、あの人は熱心だな。受験生かなと思って職員に聞いてみました。そしたら、最近入られた町の職員さんだそうですよ。へえ、そんな熱心な職員も最近出たんだと思って、また何か月間かたって時々行きましたら、その職員は来ませんでした。いや、最近あの職員来てないけど、どうしたのと言ったら千葉の国税庁行かれました。まあ熱心にお勉強される方は、皆さんもそうですけどね、どこか行っちゃうんだなと思っておりました。

そういうことですね、日々の行政を担うのは町長や副町長ではなくて、一人ひとりの職員なんですね。職員なんですよ。その職員の処遇をですね、いかに向上させて他都市と同じような職員の待遇まで持っていかないと、どんどんどんどん、これからはサラリーマン化してますから、トラバーユの職員出てきますよ。今回の私の、10人一般質問してますけども、私のこの一般質問が115名ですか、いる職員が一番関心を持っています。なぜならば、そこのガラス戸の向こうに職員が2人いるでしょう。そこのガラス戸の向こうに。聞いてるでしょ。何とか係長が。私の話は、私と町長のやり取りは、お昼になれば全部職員に通じます。その辺でですね、町長は職員に対する自覚だけ求めても、これ、しょうがないですね。日々の暮らしが立たなくなっていけば。その辺をどうお考えになっているのか。もう一回答弁をお願いします。

町長 御質問ありがとうございます。まず、確かな情報をお話をするのであればですね、私になってから5名ほどという話ですけど、やめた理由が先にあって、その後どこに就職されたかというまで足されてるような感じがするので、そうではなくて、初めからトラバーユが目的でやめられた方は、実際のところ、私が就任してからは3名。2人は自己都合の中でやめられた後に、自分の研さんの努力の中でそこの会社さんに…会社さんというか市町村に行かれたという方はいらっしゃるの間違いないので、そこはもう、あえてこういった場所で正しいことをお伝えしておきます。

その中で、今、利根川議員がお話をいただいたようにですね、やはり先ほどもちょっとお話をしたように、職員である前に人ということもありますから、そこに家族があり、家族を食わせていかなきゃいけない。その中で今言われているサラリーマン化してる。それはもう本当にこれから非常に強くなってくるといのは私も危惧はしています。していますが、やはり町には町の状況と様子もあるので、そういったことが面接のときにですね、松田町を受けたいのか、市を受けたいのか、要は町を受けたいのか市を受けたいのか、県の職員になりたいのか国の職員になりたいのか、あなたはどっちですかと。県の職員と町の職員は違いますよと。同じ公務員だからって、あなたは公務員になりたいんだったら、申しわけないけど松田町の職員にあなたはなれないでしょうね。とい

うふうな、正直になって厳しい話もしてます。でも、それでも、入ったら親方日の丸じゃないですけど、入ったら入ったで、もうそれがゴールになってしまって、あとはもうやってるけども何か生活ができないな、だからやめてほかの転職に行きたいなということになるってなると、やはり対策としては給与を上げていくというのも一つの方向性もあるんですけど、やはり、これは松田町は松田町の原因もありますしね。上げられるものだったら私も上げてあげたい。それで、今は現在、国の方針が上がったときには上げさせていただき、下がったときは下げるというふうなこともありました。ただ、私になってから話をすると、地域手当が全くゼロだったのが、皆さん方に御理解いただいて3%だけ上げさせていただきました。本当はほかの町だったら、隣町でも10%とか5%は当たり前というふうなこともありますので、その辺は全体の予算を鑑みながら上げていきたいというのは思っています。

ただ、今は町民の方々と我々が一緒になって踏ん張らなきゃいけないときじゃないかなと思うんですね。なので、気概を持ってというふうなことの中でやってますけど、本当にそんな話をするとですね、職員の中でも、何ですかね、よし、やってやるぞという職員と、うーんとテンションが下がる職員といますので、その辺は我々執行部、また課長さんたちも、どのような格好で話をしているのかというのは、昔と同じようなやり方では本当になかなか難しいなというふうなことも考えているところもありますので、確かに言われるように、気概と何とかだけではできないということもあろうかと思いますが、やはりここはそういう気持ちを持ってですね、役場職員としてのやっぱり身近な町民の人、住民の人たちを守るということを念頭に、入ってきた人たちをやっぱり守っていくということをやっぱり第一番目に書いてくれる職員になっていただけるように努力をしつつ、その頑張ったお金で、しっかりとこの松田町が自立できるようになってくるような方向性ができれば、やった分に対しては評価を、やはりこう、ボーナスだとかという形になるか、固定給、本俸のことになるかわかりませんが、そういったところの中で目に見える形で対応していく。それは今の現在の松田町のその評価制度も、私は就任してからずっと言ってるんですけども、やっぱりこう、やってる、頑張ってる人たちに対してはもう少

し、本俸ではなかなか難しいので、ボーナスだとかそういったところの中で、今、私ができる範囲の中でやってますけどもね、まあそういったことをやりながら、職員のその仕事の意識を下げないように、可能な限りですね、知恵を出してやっていきたいと、そういうふうには思ってます。以上です。

7 番 利 根 川　　私はすぐにやめるで有名だったんですけどね、今回の問題だけはちょっと長くやらせていただきます。私がさっきから申し上げてるとおり、これは松田町だけの問題ではなくて、神奈川県下13町1村もありますね。そこで大きな問題になってるのではないかと。ただし表に出てきません。なぜならば、何回も言うように、憲法で制約されちゃってるんですね、職業選択の自由は。だから3月まで松田町役場の職員で、4月1日からお隣の秦野市役所の職員になりましたから退職します。これ、しょうがない。

そこで、私もいろいろ人に聞きました。例えば松田町にもコンピューターのシステムエンジニアが派遣されてますよね、委託料たくさんありますから。そういうコンピューターのシステムエンジニアを派遣する会社では、優秀なやつもいれば、そうでもないのもいる。そうすると、みんな取引があるそうです。引き抜きはしないで。引き抜きはしないんだと。これも表に出てきてませんから、言うべきこと、いいのかどうなのかわかりませんが、例えば自動車販売会社とかね、あるいは銀行とかね、そういうところも多分あるんじゃないかと思うんですよ。ものすごい腕のいい自動車のセールスマンがいて、有名なやつ。それで、かつては30年ぐらい前に、郵便局員でもものすごく優秀な人がいました。これは当時は公務員ですからね。保険の勧誘で毎年年収2,000万ぐらい稼いでる人がいました。東京にいたそうです。その人はもう毎年のように民間の生命保険会社とかいろんなところからスカウトがかかる。でも、俺は郵便局という看板があるからそれだけ入ってくれるんだ、簡易保険入ってくれるんだと、やめなかったそうですけどね。

それでですね、何が言いたいかという、町長さんの集まりで13町1村ですか、集まりでですね、町村会がありますよね。市長の集まりで市長会もあるはずですよ。そういうところとですね、一回話し合いされたらどうですか。引き抜きはしない。これ最も大事な話ですよ。これどんどん出てきます。1人出れば

次から次へ出てきます。職員は絶対口にしません。しゃべりません。ただし、仲間が集まれば、誰々さんはどここの市役所行っただってよ、給料が3年でこれだけあってよ、陰でそういう話ばかりしてる。あの2階の食堂の陰でね。これからますます多くなってくる。それをやっぱり防ぐにはね、余りにもひど過ぎますよ。その湘南のある都市、町みたいに、5年間で二十数名なんて、一切それも表に出てないなんて。だから県の市長会と、あるいは湘南地区の市長会とか、神奈川県町村会とか、公のその題名には出せなくてもですね、この辺でちょっと話し合いをされたらどうか。そういうお考えあるかどうかお聞きしたいと思います。

町 長 近隣の首長さんたちとはですね、この、要は知的財産といいたいまいしょうかね、横に流れてしまうというか、どっちかと言えば皆さん異動される方々というか、退職される方々が意外と東のほう向いてるのかななんて思うところがたくさんありますけども、内々では話はしてはおります。ただ、今おっしゃられるように、これをもう正式な、公式な場できちっと議論をしてほしいという利根川議員のお話については調整をしてですね、その中でやっていく。そこが民間だからよかったというわけでもないと思うんです。これはもう一つの考え方として職業選択の自由がある以上、役場の職員だからこれはだめ、民間だからこれがいいというのはなくて、ほとんど平等な話だと思うので、我々町村会の中で、そういった職員さんが例えばいる中での制約を内々で、いや、こんな人が来たからこれはだめだよ、あれはだめだよというようなことが、正式な議論になるかどうかはあれですけども、こういった場で御提案をいただいた話ですので、そういった話はしてみてもいいですね、調整を図っていきたいというふうには思います。以上です。

7 番 利 根 川 もう最後にしますけれども、湘南のその町の議員さんとも話をしました。非常に頭を痛めていると。やっぱり同じことを言ってました。町村会でこれは表か裏かわかんないけども、議題として取り上げざるを得ないだろうと。我々の側にも責任があります。我々の側にも、議長会もあれば議員同士の横のつながりの勉強会もあります。つい先日も足柄政策研究会もありまして、私がこの問題を討議したら黙ってしまう議員も多いんですね。裏で面倒見てるやつもいる

から。だから、なかなか表に議題として出すということが難しいでしょうけれども、1人出れば2人、2人出れば3人という形ですね、ずるずるずるずるいってしまうということを非常に危惧してます。それで、もう愛社精神、かつての愛社精神とかね、町を愛するとかね、町のためとかね、町民の生きがいのために我々もそれ自身の生きがいになるんだなんて、そういう何か神頼みみたいなのがもう今通じませんのでね。それが証拠に、各スポーツ界でも最近18歳の子が、40年も50年もやってる人を批判したりですね、いろんな形で吹き出てる問題が出てますので、我々も注意しなきゃいけないと思うんですけども、こういう問題はですね、問題が吹き出さない前にですね、私は今、問題になってるのはお隣の町と松田だけだと思うんですよ、上郡の中では。これは近所の町では、松田よりももっと退職してる人が多いということですからね。これは何とか今のうちに手を打たないと、大変な問題になるということで、今回問題提起をさせていただきました。町長におかれましては、町村会等でですね、表にするか裏にするかわかりませんが、きちっとした討議をして、もう最後は、引き抜きはするなというような申し合わせ事項か何かをつくらない限り、どんどん出てきますよ。どんどん出てきます。その辺をお願いしまして、きょうはいつもより長くなりましたけども、一般質問を終わりにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

議

長 答弁はよろしいですか。はい。以上で利根川茂君の一般質問を終わります。暫時休憩といたします。10時25分より再開をいたします。 (10時07分)